

第6回災害支援訓練

実施報告書

広域リサイクル事業協同組合

第6回災害支援訓練実施報告書 広域リサイクル事業協同組合

日時：平成26年3月8日（土）10：30～12：30

場所：①集合場所…扇町クリーンセンター（小田原市扇町 6-826）

②派遣場所…町田小学校、富士見小学校、豊川小学校、東富水小学校、富水小学校、足柄小学校の6広域避難所

参加者：小田原市環境部5名、広域リサイクル事業協同組合58名

趣旨：大規模災害が発生した場合は、まず人命の救助やライフラインの確保、それに必要な主要道路など交通路（緊急輸送道路等）を確保する行動がとられる。その後、食糧の確保の表裏で広域避難所等における厄疫防止のためし尿処理の問題が出てくる。

小田原市地域防災計画の最大被害想定により避難者及び水道断水世帯の仮設トイレ等のし尿処理を行う場合をシミュレーションして収集体制をとる。

迅速な収集体制をとるために、緊急輸送道路は早期に確保されることを前提にして主に緊急輸送道路を走行して広域避難所へ向かう。また、これまでの訓練経験から大型車両が広域避難所のグラウンドに入っていけないケースがあったので、小型の車両をメインにして収集体制をとる。

内容：平成26年3月7日（金）7時00分に発生した地震（震度7）の影響により、小田原市が被災し、小田原衛生公社が浄化槽の清掃を中止して住民在宅汲取り世帯及び避難所仮設トイレし尿処理作業を優先してあまっているものの、避難者及び水道断水世帯があまりに多数のため、1社では収集作業に支障をきたしているという想定のもと、災害収集を行う。

訓練概要：小田原市との連絡訓練、応援要請から参集訓練、避難所への派遣訓練までを行う。

主な使用機材：

バキューム車 25台

パッカー車 1台

トラック 1台

仮設テント（3m×3m）1張

車両看板 27枚

机 3台

パイプ椅子 6脚

ブルゾン（責任者のみ） 5着

交通誘導灯 2個

音響設備（ポータブルワイヤレスアンプ1機、拡声器 1機）

白板 1枚

非常食セット 48個

腕章 3個

備考：

最大被害想定では、広域避難所し尿処理には2t車換算で25台のバキューム車が必要と算定された。

タイムテーブル

7日（金）

- 7：00 地震発生
小田原衛生公社が災害収集にあたる。
- 16：00 小田原市環境部からの応援要請受理。組合員へ応援要請。
- 16：05 小田原市へ応援体制を報告。組合員へ出動要請。

8日（土）

- 10：30 全派遣班、集合場所に到着（扇町クリーンセンター）
司会進行 浅田理事（防災・技術担当）
開会挨拶 鈴木理事長
来賓挨拶 加藤小田原市長より激励
参加者紹介
訓練行程説明
小田原市から応援要請の内容説明
・市内25箇所の広域避難所の設置に伴う仮設トイレ汲取り、簡易トイレ便袋収集の要請
班編成（2班体制とする。第1班を勝俣班長、第2班を高橋班長が担当）
責任者会議（浅田統括、勝俣班長、高橋班長、小田原衛生担当者）
班別ミーティング
・市内状況説明
・運行計画作成、作業指示
- 10：40 浅田統括より出動命令
- 10：40 作業チームごとに広域避難所へ移動。
- ～11：30 広域避難所の担当者に到着報告。指示を受ける。
作業に必要な情報を収集し、災害支援活動報告書を作成。
- 11：55 訓練終了式
関係機関挨拶 小田原市環境部 和田部長
主催者挨拶 鈴木理事長
- 12：40 後片付け、解散

現地案内図

小田原市扇町 6-826



現地災害対策本部

訓練状況

開会あいさつ



小田原市長より激励



現地対応協議



訓練状況

環境部から市内状況説明



1班ミーティング



2班ミーティング



訓練状況

出動命令



出発



講評



訓練状況

関係機関挨拶
環境部長



全景 1



全景 2



震災から3年、重要課題の「し尿処理」

広域リサイクル事業協同組合 小田原市と合同訓練

クリーンセンターから広域避難所に向かうパキウムカーを見送る加藤市長(右端)と鈴木理事長(右から2人目)



訓練は震度7の地震 連絡、参加訓練があり、に伴い、小田原市の公 参加者は市岡町クリー立小25校に広域避難所ンセンター(し尿処理)が開設されたとの想 施設に本誌を設けた。 定、手組合と市による 避難所にはそれぞれ

くみ取り作業の手順確認

東日本大震災から3年を目前にした8日、県西部や湘南、県央地域のゴミ処理、し尿処理の民間業者で構成する広域リサイクル事業協同組合(鈴木茂樹理事長、事務局小田原市寿町)は同市と合同で、市内で災害支援訓練を実施した。災害と切り離せないくみ取り式仮設トイレのし尿処理に焦点を当て、組合員や市職員ら約60人が参加し、有事の際の手順を確認。被災時のし尿処理をめぐる課題は、きりこぎでは済まされない問題がある。

阪神・淡路大震災で広域避難所を訪れた組合員の一人は、「仮設トイレにはし尿があふれていたが、それでも男性は高い台を踏み、その上に座って用を足して、トイレの裏に穴を掘り、ブルーシートで囲って対応していた」という。

阪神・淡路大震災など 加藤市長深刻さ実感

続けて、「一方通行の道を逆走する車もあり、道路はほとんど無法地帯。このせいで、パキウムカーがなかなか避難所に来られなかった。ようやく着いたところには、トイレの対応能力は限界を越えていた」と話し、車両が迅速に現場へ到着できるかの課題も指摘。

別の組合員は、「訓練は課題づくりの作業でもあると思う。災害時のし尿処理に対する首長の意識が高いか低いかで、対応は大きく違う。小田原市の場合、加藤市長自身が過去の震災で大変さを体験していることから、心強いと感じていた。同組合では2011年の東日本大震災以降、ゴミ処理、し尿処理に特化した災害時対応訓練を継続して実施し、今回で6回目。同市との間では、「災害時における一般廃棄物災害収集に関する協定書」を結んでいる。

30基の仮設トイレと18基の簡易トイレが置かれ、1カ所当たり約6000人が避難する。また、おおよそ1万9600世帯で水道が断水。一方、同センター

と市内の主要幹線道路は通常通り機能している状態。市側はこれらの想定を組合員に伝達し、し尿処理作業を要請。組合員らは6つのグループに分かれ、各班がどの避難所に向かうかなどを分担を確認。パキウムカー(2台車)延べ27台に乗り込んで同センターを出発し、25校のうち6校を回りセンターに戻った。

訓練に先立ち鈴木理事長は、同市の地域防

「下水道管が破損した場合、一般住宅でトイレが流れなくなる事態も想定される。避難所と住宅、下水道管及地域を対象とし、災害時、いかにして処理作業ができるかを。私たちが重大な使命を担った」と述べた。

神静民報

発行所
小田原市栄町3-21
株式会社神静民報
営業所
小田原市久野450
☎ 0465-35-18
FAX 0465-30-18
無断転写禁止
定価1カ月2000
定価1部 90
http://www1.ocn.ne.
sinsei-tv/
sinsei-n@chive.ocn.ne

鈴廣不まぼこ

小田原市風祭二四五 電話(四)三三四一七

「一歩へ踏み出す訓練としたい」と述べた。続けて加藤一市長があいさつに立ち、阪神・淡路大震災と新潟県中越地震で、自らが災害ボランティアとして活動した体験を紹介。同震災では神戸市や若屋市の住宅街を訪れ、水や食糧は支給されたものの、地震の影響でトイレが使えず、住民が困っていたという。



～地震でトイレが流せなくなったらどうなる？ どうする??～

広域リサイクル事業協同組合と小田原市環境部の 災害支援訓練が3月8日に扇町クリーンセンターで行なわれました



約70名が参加し、小田原市の加藤市長(中央)も視察に訪れました。右は組合の鈴木理事長。

もしも地震で水道が止まったら、水洗トイレは水が流せなくなります。その場合は、バキュームカーで溜まった排せつ物を汲み取って処分しないと、トイレは排せつ物ですぐにいっぱいになってしまいます。水道の復旧に何日か要する場合、あふれたものは土に埋めるしかありません。各家庭はもちろん、大勢の人が集まる避難場所は劣悪な衛生環境になってしまいます。

県内17社の廃棄物処理業者が組織する「広域リサイクル事業協同組合」(鈴木茂理事長・小田原市寿町)では、「小田原市内の25カ所の広域避難所のトイレを清潔に保つために、最低限必要なバキュームカーの台数」を綿

密に計算し、小田原市に呼びかけて、災害時の広域避難所の収集作業を想定した訓練を行ないました。有事に即対応できるよう、秋にも実施する予定です。



市内から15台、応援車両10台が出動。

- バキュームカーは、トイレの設置場所により汲み取りができないこともあるそう。「地域で防災に関わる方は、仮設トイレの設置場所を一度よく考えてみて下さい」と鈴木理事長。詳しく知りたい方は同組合(TEL.0465-35-2348)へ。